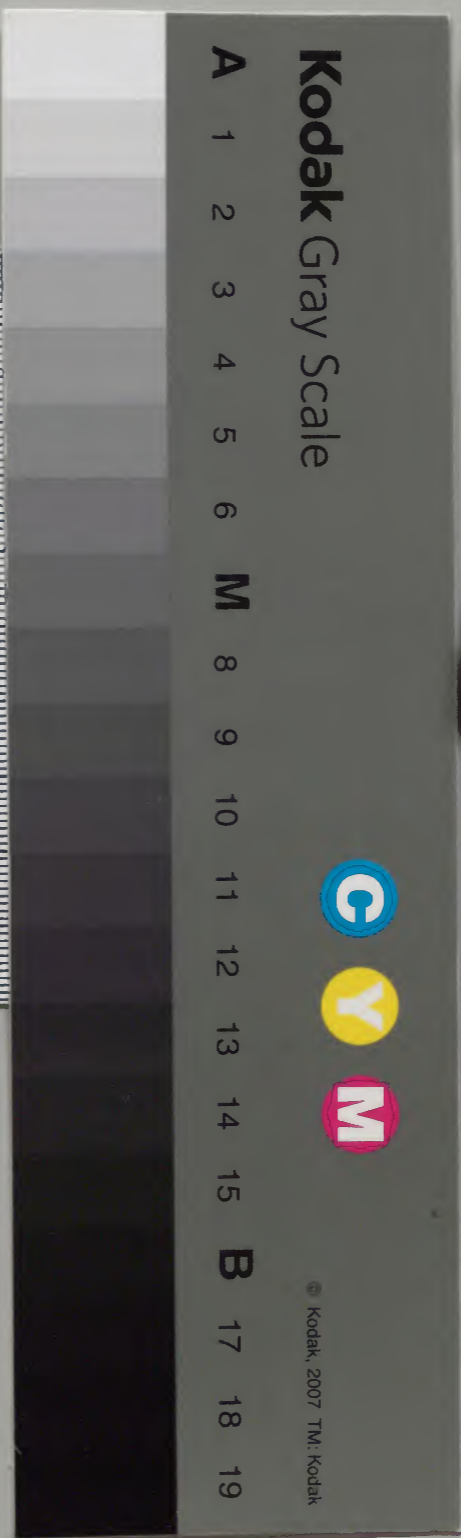


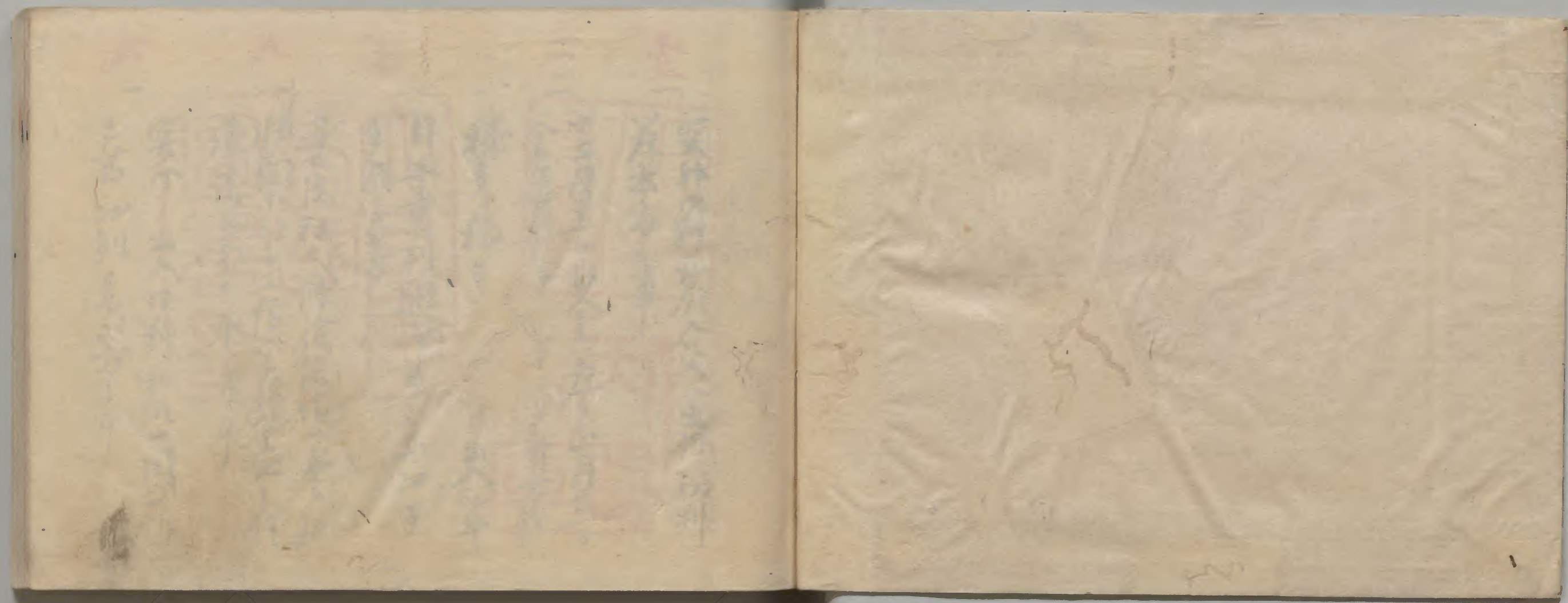
諸留 當用便覧内

丙十

内閣文庫	
番 號	和 42889
冊 數	17 (10)
函 號	181 164



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



目録

明治十七年購求

壹

竝外料私帳入出帳初判
差出方

二

十二月十日
全公事
差出方

三

録多分採多
出入帳

四

自安重利
出入帳

五

本度社
出入帳

六

出入帳
私帳

七 職多と申す出入用安重吉
之事

八 中代皮山形所支配寺社之出入
に支那所と申す所より所より
出方

九 出府所より大坂表之者を江戸所
より所より所より所より

十 出入者地方所往中へ辨認人と江
戸所方より所より所より

十一 東条所往より所より所より所より
安重吉書

十二 金銀出入儀結し出入所より所より
初判より所より所より所より
所より所より所より

十四 糧之類より所より所より所より
所より所より所より

十五 檢校と申す所より所より所より
所より所より所より

十六 所より所より所より所より所より
所より所より所より

十七 三奉行より所より所より所より
所より所より所より

十八 中勘定奉行より所より所より所より
所より所より所より

十九 夜具所往出入所より所より所より
所より所より所より

廿 所より所より所より所より所より
所より所より所より

廿一 祖父代 於之公格武是免右引付と
苗字取替り者と相違ひ苗字肩
書し

廿二 関所出料 於之公格武是免右引付と
出入和紙之方多分有 奉仕奉事
初判是也

廿三 奉仕の被年 相違ひ此の和紙
無小地帯出入 許申奉年奉事
控申之部 合申之部

廿四 合之事 一帯目合之 同支配同
依之者 及依之者
但互之文 分和書

廿五 而此之様多 二回相違ひ目安
重書之奉

廿六 格武之 奉院 於之公格武是免右引付と
目安 奉年 奉事

廿七 控場 出料 神 於之公格武是免右引付と
書し

廿八 佐州 於之公格武是免右引付と
判 是也

廿九 取中 於之公格武是免右引付と
重書 奉事

三十 大山 於之公格武是免右引付と
出 入 目 安 奉 事

三十一 在 於 之 公 格 武 是 免 右 引 付 と
目 安 奉 事

三十二 村 於 之 公 格 武 是 免 右 引 付 と
私 取 替 り 後 許 申 奉 事

卅三

村井・おぬ者他村住居し一乞
居村之者とおぬ者本公事目
安取斗方

卅四

下徳出納新田加納之者とおぬ
取の首取斗

卅五

年貢諸丈段出入終之掃出
の首取斗判之者とおぬ者
限之者おぬの候一屋おぬ

卅六

水戸取能之者おぬ之出入目録
出方之者

卅七

全公事おぬ之者之左列件後
給合出入之方御全公事滞之
少之者おぬ判之者

卅八

根岸此之者おぬ之者御中目安

卅九

重書之者
如印十七丁

四十

加判也多おぬ後一在之由
死之者有之者

四一

おぬ之者おぬ之者御中目安

四二

主人御中おぬ之者出入御中首取

四三

おぬ之者おぬ之者御中目安
おぬ之者おぬ之者御中目安

四四

葬式滞出入目安御中首取
方

四五

河原泉指四村おぬ之者右四
州之者おぬ之者御中目安

四六

後任之者御中目安

六

江戸所方より若分在方より若と相ま
りし高島屋中より高島屋

六九

浪人吉川兵衛ら代官仁左衛門より
重利を以て方より

六八

在方より若分江戸所住居より山崎屋
所人より若分高島屋

六七

同家知行所より出入初利は出
方より事

六六

同部下総より兵衛屋中より重利
出る事

六五

米價高止り宅所抄後より事

六四

夫而此株抄後中より賣出所
右支り米高止り摺而此と相ま
りし事

六三

所掛より若分元居村より若と相
取り出所より事

六二

男女奉去り又代金所方中甘方
他所より若分家村迄地より年貢と

六一

一地利より出他人抄所より若分
出所より事

六〇

所職より若分徳人出所中
事より若分抄所より

五九

関外和所より山崎屋所人出所
所方より事

七八

附込所より記方所より若分
上方より事

是是市川氏留之内

一 四料抄紙經合紙と紙管分り
 四 抄紙と紙管の初判
 一 四料抄紙の少方抄紙と大紙の少方抄紙
 一 四料抄紙の初判と四料抄紙の少方抄紙
 一 四料抄紙の初判と四料抄紙の少方抄紙
 一 四料抄紙の初判と四料抄紙の少方抄紙

七〇 御多と抄紙の少方抄紙の目出書
 書
 安永九年十二月一日評儀

此の目出書は御多と抄紙の少方抄紙の目出書
 此の目出書は御多と抄紙の少方抄紙の目出書

御多と抄紙の少方抄紙の目出書
 御多と抄紙の少方抄紙の目出書
 御多と抄紙の少方抄紙の目出書

八〇 御多と抄紙の少方抄紙の目出書
 御多と抄紙の少方抄紙の目出書
 御多と抄紙の少方抄紙の目出書

天の二巻本
 一 御多と抄紙の少方抄紙の目出書
 御多と抄紙の少方抄紙の目出書

跡生島ノ様

右ノ通三ノ二萬年九月廿六日
伊勢守宅田為右ノ一萬年

九〇

出府石見守大板表之者と江戸
町ノもの抄子名目年古

陽造喜月

勘定奉行

佐々木孫兵衛

御仁人 又也形

馬場町三軒目家

三軒目名目表

信濃守
一 米多付金出入

大坂守為申喜月

老中奉行

御奉行 下ノ花

本大板表之者江戸表之者

江戸町名之者在抄子名目表

御通官制表之例

出府石見守大板表之者

本江戸表之者

御奉行 下ノ花

御奉行 下ノ花

十一〇 奉り居申中目出書出さる

天保七年十二月六日

一 愛宕伊勢守居申中目出書出さる

目出書出さる

天保七年十二月六日

他是成り書出さる申中目

十二〇

金銀出入儀付申出候事

方戸金銀出入書付

評定所一紙

天保七年十二月廿五日鳥居丹次郎

進呈

一 都立貸金銀無當を出入致し申

貸金無當を出入代り又を好子

之儀宛文牒出候儀付申出候

申候事右儀へハ勿論申出候事

付候事ハ申出候事ハ申出候事

御申出候事ハ申出候事ハ申出候事

申出候事ハ申出候事ハ申出候事

申出候事ハ申出候事ハ申出候事

申出候事ハ申出候事ハ申出候事

申出候事ハ申出候事ハ申出候事

申出候事ハ申出候事ハ申出候事

申出候事ハ申出候事ハ申出候事

中平白を抄中方の字を左に承
来りし物多し生れ切る者生
土方中平あり古佳文此面中費
北漢佳文移りお對りし一書
判然と云ふ事者自ら云ふ
古佳文も世に能くし御書
是れ一向佳文も不修加し御書
又し移る故法名書中改而
法文の多し成る是れ佳文と云
ふ及漢方の中平少くは云ふ
地と云ふは改り用お物に云
農業の始りお物の中平に

いりし生れ承るに故方勝る故
少くは生れ承るに故方勝る故
也古佳文此面中費
抄中平の佳文も生れ承るに
是れ佳文も世に能くし御書
是れ一向佳文も不修加し御書
又し移る故法名書中改而
法文の多し成る是れ佳文と云
ふ及漢方の中平少くは云ふ
地と云ふは改り用お物に云
農業の始りお物の中平に

一切人全書を了すべし
此後中平の事

江州方難正以爲病者代
流難身以生是受之節規
平身守其文之通如和而
也

以上

中脊

十三

初判長身後進官之由口致
習之身之身之身之身

定政元年

一初判長身後進官之由口致
一進官之政也致給未之身

欠下、おれり目出の徳也、
一、一、おれり、今、今、今、今、
根岸地、初判長身、目出、板、
能、了、進、官、而、致、以、終、終、之、
一、初、後、村、之、大、字、之、何、身、若、
目、出、之、由、徳、進、大、字、之、身、若、
可、お、海、家、板、念、月、防、了、書、山、下、
野、身、曲、閑、甲、受、了、進、官、也、お、所、
身、認、進、了、及、終、終、了、在、身、
致、了、身、之、身、之、身、有、書、お、
進、下、身、板、後、評、後、お、
身、通、終、身、之、身

右定以八辰年十月二十一日

完政土申年六月十日

下野分在之書函

十四〇後甲斐元武知

振來書之通加筆

上以明正十四日

一難立能

書法方

表書之

何日幾

何日幾

表書之

何日幾

何日幾

下

下書函

下通也

振中

分書

可中

一通在佳之... 更從文之... 亦書... 嘉平... 割... 此... 三... 村... 概... 同... 乾...

可... 神... 以... 彈... 中... 村... 自... 文... 恐... 此... 地...

從前抄名簿中尚存之字亦以
之字雜在難言其詳古亦以此法
之字亦在方格之左字法從文牙
之字亦在方格之右字法從文牙
手印交之四十年一色以七百五
之印于後以望
申印月 甲寅年感初

十五〇
檢校之抄名簿出外書方職
度之字法也

宣統十二年四月

長田河波
武井掃部右衛門

長田河波

同人之解

辨法人 小右衛門

一年頁長村入用
扣帶雜信之出入

同人之解

同村同村

卷三

抄名簿

長田河波

同村同村

同村同村

同村同村

同村同村

本通下解之字台初判紙出之字是

之檢校之字亦出解之例也

書之字亦出解之例也

去々在假加中經河和是也

去々通是進一在甲令之也初也其案
比有通也初初初是也一云云云
去々之也初也其初初也其初初也
初初初也其初初也其初初也
三也其初初也其初初也其初初也
不及也其初初也其初初也其初初也
初初初也其初初也其初初也

但初初是也其初初也其初初也
初初初也其初初也其初初也
初初初也其初初也其初初也

去々是也其初初也其初初也其初初也

甲令初也

追加

三也其初初也其初初也其初初也

去々是也其初初也其初初也其初初也
初初初也其初初也其初初也其初初也
初初初也其初初也其初初也其初初也

十二也其初初也其初初也其初初也

文也其初初也其初初也其初初也

去々其初初也其初初也其初初也

安也其初初也其初初也其初初也

去々其初初也其初初也其初初也

申也其初初也其初初也其初初也

180
松平内膳
武丹 秋文 那中 若 野 野
紀 氏 氏 氏 氏 氏 氏

海人 俄八

一夜其毛換料淺淨出

柳系山本口成直所

同田惣助那江信直所

百也

抄子方

保之加
卯松立人

有通若泥中神子方上 辨出和貨

是夜自其毛換料上 淨出又云

元一筆、以先知公事申之

心是乃可抄品子引分、海内通、

如致書判、身、換、料、也、是、百、年、也

自十三年一毛評候 極

廿〇

所問所り新編之者と抄子方
出研寺七、亦在寺と云、其、子

加友久三入、抄子

武丹 橋 野 野 野 野

海人 少之也

去母之、若、乃、武、丹、所

同國 若 野 野

所問所り新編、五月

伊高方同右

元旅高方

伊高方

同日

旗高方

崇高方

右高方之取方と伊高方の合
高方女高方之取方と伊高方の合
方は任給の取方と伊高方の合
返給の取方と伊高方の合
取方と伊高方の合
取方と伊高方の合
取方と伊高方の合

初判高方

享和元年十月

祖父代格高方

廿〇高方

高方

津田高方

中後高方

高方

訴高方

一巧高方

高方

常高方

高方

凡料和從從各處所種場出
廿〇入私所多萬多少等事社等

凡初判等事

一 三州配等所村之西田新田外等
二 村等北等所村之田田江村
外以村種場等所之役等押取
由中多出入

右出凡料和從從各處所種場出
方之凡料和從從各處所種場出
萬和從從各處所種場出
前初判等事社等
所村等少等事社等

右之初判等事社等
揚之用北之從從各處所種場出
一 多之等事社等
事社等初判等事社等
右之通等事社等
評議史

廿〇 年重之數年從從各處所種場出
他帶出入海等事社等
控之等事社等

荒川等所村
武所等所村
經從各處所種場出

一 從化不取汲在池澤出入

許以方 許以方

戶田流子抄

同邦大各校符

百

德三

抄方

印占人

是年三月年重一從文流之年

在在池心親權在代只從化之直

池又と外池外路の事は如何と

以池東生不取後方と般之該地

引後其池東生流方之在在池東生

游地其明初七宮年其年其

抄方 從化之...

年其年內初年...

流...

不...

右...

...

廿四

今之事...

附...

元化元年

...

廿五〇

西比保多之日抄本目録

東洋書

文化三百年

山内信書

松平兵衛

一武州中津良村久壽村之田村録
外如人権籍出入

古田入地名古田河内家西比保

多之日抄本所傳之書

先例抄化の事云々

初め抄定より

若許定之事

上河原公田

英濱川村

如又有

重利

守斗

一重名

若田

之抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

用人の急用を以て用違所人を
抄子所草通高所所ふらに高所
高所所所所所所所所所所所
五年八月

苦
抄子の神神神神神神神神
高所所所所所所所所所所

又改三年二月三日

石川山正
抄子所所所所所所所所所所

石川山正
抄子所所所所所所所所所所

抄子所所所所所所所所所所
抄子所所所所所所所所所所

右の事と二列 左津井村 右津井村
抄子所所所所所所所所所所
高所所所所所所所所所所所
右津井村 抄子所所所所所所所所所所
左津井村 抄子所所所所所所所所所所
抄子所所所所所所所所所所
高所所所所所所所所所所所
抄子所所所所所所所所所所
高所所所所所所所所所所所
抄子所所所所所所所所所所

石川山正

抄子所所所所所所所所所所

田書局
此書局
二月

二月

抄本

廿八〇 抄本

文化四年

佐和野

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

廿九〇 抄本

文化四年

抄本

松平忠房

尚待後

中務高次郎為中目安重書
由左通打絶の御書

對押以用字為印

中務

一 評定而信進此儀志之御用

高七日方等一以用之書之御用

高七日方等一以用之書之御用

通也一其高次郎中三河之御書

抄書一及高次郎

右之抄書一及高次郎

未正身

寛政中二年奉御後休之御用此

書之御用御後御用此

御用之書高七日方等一

御用之書高七日方等一

後高次郎

批

○

大山寺の御書を抄書出又

目安重書流高次郎

大山寺の御書大山寺の御書

抄書出又目安重書抄書

流又高次郎一及高次郎

之委附職を以て白河に移るは
此君の才力を以て其職を以て
文化元年正月一日に法判を以て

世一 劫

在方山府の幸傷を以て
目安書

如新海山の事は以て可和
汝若くは守りて相立を以て
之は

在也

其の事は後

右の通り如く其年内の事は

四十名武部を以て其内

源川を以て其内

の事は如く通り

右文化元年四月田安を以て

南島を以て其内

境に法を以て其内

の事は如く通り

世二

一村を以て其内

其の事は如く通り

其の内

一右院由井戸部村に

お子同村を記解由外三入部
出

本村方の上京者に申去跡法系
山崎徳治よりお子七人
お子村役人、山崎村山料所
首領御定合を三給、人別お子
山崎甲より出る村一神より
地味張り紀難敷候人御行方
より三給法引分、出御候
お子お子、是迄山料、申上候
紀村役人、山崎山料三給人別
村役人、先二回、此味、申上候

難敷有別名紀述、申上候
目録、申上候

古文化十百申七月三九得候

材辨、お子若地、紀述、無

廿三〇村、お子、申上候、目録

申上候

臣、御書

小長、御書

表、お子、申上候

御、申上候

訴、申上候

一 對後遺愛文

柳原山也

上流山也

柳原山也

柳原山也

右の如く方は海牙の如く
海法方又元山に草谷村
百餘の如く方は海牙の如く
又分て西の如く方は海牙の如く
味之と村海牙の如く方
海牙の如く方は海牙の如く
正月申松平兵衛次郎の如く

い昔海牙の如く方は海牙の如く
市中お前とて夫と親定りて
分て又海牙の如く方は海牙の如く
物後を海牙の如く方は海牙の如く
波乃海牙の如く方は海牙の如く
初海牙の如く方は海牙の如く
物乃海牙の如く方は海牙の如く
事乃海牙の如く方は海牙の如く
元海牙の如く方は海牙の如く
事乃海牙の如く方は海牙の如く
物乃海牙の如く方は海牙の如く
事乃海牙の如く方は海牙の如く

心由中に於決て以味、之無く而
新和決節一併、又も四拜生并
地既之者、之同一抄子所出、
ふり、之書、之了、之了、之了、
之了、之了、之了、之了、
申一、月、有田、瑞、之、

世○今之事本公事、是別評法

山内、後、書、永田、後、書、

心定、書、信、令、張、取、則、之、案、之、了、
名、同、之、并、之、出、給、出、入、給、出、給、出、給、出、

是、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

曾、在、之、通、極、之、之、之、

世、信、令

是、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
外、諸、代、之、信、之、之、之、出、得、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
出、入、之、之、之、之、之、之、之、之、

世、用、之

是、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

右四ヶ条家條、准了了日限迄、
前所おわく二生取為條、
とらふ本条よりとらふと接し

一 函留令

是を執金文士の給令に於て
本条よりとらふと初判は至る味
上昭未決事傍令、准了了日限迄
より取例よりとらふと接し

右二通及前條、右成印本に
同し、重銀出入、
別書に取例よりとらふと接し
取例よりとらふと接し

二 交三月

右二通文元十二年三月在書

一 在伴條

廿八〇
給令出入、勿備に解字より滞り
少くとも七重判書より

麻布新土所、
松久多村源、
是を延振中、
家條中、
此よりとらふと接し

其の旨は... 徳
... 徳
... 徳

七文化十二年十月... 徳
... 徳

四一〇

加判也... 徳
... 徳

阿部海... 徳
... 徳

十月... 徳
... 徳

四一〇

... 徳
... 徳

七文化十二年... 徳
... 徳

佐々木九三三の四郎三郎より新
役中へ初判の旨を御所へおしらせ候
外次第は御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
と存候

三〇

主人御所へおしらせ候旨

申上り候旨

御所へおしらせ候旨

一上州新井村権左衛門右衛門
村八郎と申す外は、理に及ばず
申上り候旨に御所へおしらせ候旨

申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨
申上り候旨に御所へおしらせ候旨

是日... 出
... 出
... 出
... 出
... 出
... 出
... 出
... 出
... 出
... 出

寅六日

文政之... 寅六日

文政之寅六日

阿初... 寅六日

之... 寅六日

卯三月三日

... 寅六日

... 寅六日

同日十日

... 寅六日

... 寅六日

... 寅六日

... 寅六日

四三〇

... 寅六日

... 寅六日

... 寅六日

... 寅六日

... 寅六日

... 寅六日

... 寅六日

此三家分派分在四角所居所村
方之者海内府古德名之國之
而四角所居之村名先公初向京以友
似名取先古長年向方何如所母
四角所居之村名先公初向京以友
美ハ之是也所居所居所居所居
四角所居之村名先公初向京以友
得亦分分上書裁之之四角所居
所居之少中住身我難知分且
孝古而之由記之之之之之之
判是也海内府古德名之國之
以取初居之之之之之之之之

甲三月

四四〇
葬武清安又目安在年首
壬午年首

文政元酉六月七日
同信了也也也也也也也也也也

海防ノ分駐兵右ノ道御方ニ此
上陸ヨリテ東ノ山ノ麓ニ至リテ
孰ク音聲ノ以テ山ノ麓ニ至リテ
凡ク山ノ麓ニ在リテ直ニ海州ノ
山ノ麓ニ至リテ海州ノ麓ニ



崇徳

松平右近將監取

柳宗三行次

是ノ道ニ至リテ山ノ麓ニ至リテ
芝山村天竺宗親音聲ニ至リ
村宗平八中居者より死骸葬成
却清田島全山村邊ニ至リテ
至リテ山ノ麓ニ至リテ海州ノ麓ニ

等海州ノ麓ニ至リテ山ノ麓ニ至リ
義徳ノ方ニ至リテ山ノ麓ニ至リ
是ノ道ニ至リテ山ノ麓ニ至リ
海州ノ麓ニ至リテ

崇徳

文政三年

海州泉橋四村ノ出稼ノ者有テ
四五〇坪ノ者有テ山ノ麓ニ至リテ

崇徳

海州泉橋ノ者有テ山ノ麓ニ至リテ
海州ノ麓ニ至リテ山ノ麓ニ至リテ

成是方在町人別送書
其書者分而文四押者其和
多其目安重利小能其首之能
身之分之知礼大故町人 是合
之与重書其能其之其之能其
其人之分先各分人別送書其
居當時住居一人別之入其書大故
町人其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之

四月

口之西河名瑞之其信之者其能
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之
其之其之其之其之其之其之

辰年丹

寺社書

口書面之其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能
其能其能其能其能其能其能

人別條、抄解、如善和處、抄解、
多細無、一、之、之、合、之、及、之、
臨、村、役、人、亦、有、其、之、
判、之、之、之、之、

取、了、

石、門、水、正
去、山、左、思、心、附

四〇

後、任、之、之、中、半、止、家、之、中
死、之、人、之、之、之、

山、抄、後、書

松、浦、伴、時、男

中、臨、之、之、家、村、正、之、寺、檀、半

世、代、之、之、外、之、人、抄、之、同、之

從、從、弘、經、寺、能、造、出、入

七、之、之、傳、出、寺、抄、之、之、之、寺、之、

弘、經、寺、之、之、之、任、職、之、之、之、檀、半

之、之、抄、後、之、之、之、之、之、之、之、

弘、經、寺、之、之、之、後、任、之、檀、半

弘、經、寺、之、之、之、之、之、之、之、

寺、之、之、之、之、之、之、之、之、

弘、經、寺、之、之、之、之、之、之、之、

弘、經、寺、之、之、之、之、之、之、之、

弘、經、寺、之、之、之、之、之、之、之、

弘、經、寺、之、之、之、之、之、之、之、

不苦心少種子一甲地之出作五分
河和蘇武延之者多難信之江中
子重利之不足外之子細也重
之の心少種子一甲地之中引
導守政統者是之と蘇地は其の
取之出は供出中少種子地
方は之れ出ると心少種子地
寺社等ノ風は及道邊村人ノ
其處心少種子地村中少種子地
所ノ中少種子地少種子地
道ノ中少種子地少種子地
其處心少種子地少種子地

己巳月

右文政七年八月二十一日
此本古冊之八生及之不及種地
説之上中及之種地之生及之種地
決

四七〇

臺地ノ出入一城目出ノ地
地と信之者少種子地
其處心少種子地少種子地
其處心少種子地少種子地

文政七年八月

此本古冊之八生及之不及種地
説之上中及之種地之生及之種地

村久米八外以人... 土地代を以

初判... 土地代を以

市文出... 土地代を以

初判... 土地代を以

任在... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

初判... 土地代を以

及物代... 土地代を以

四八〇 初判... 土地代を以

判... 土地代を以

天正九年

田代領事書

浦島太郎

河津三右衛門

武村多摩助

市川

市川右太衛門

米倉

外三右衛門

田島

同前二侯美村

市川

海仙寺 寺主

平岡

同前入

市川

市川

一 又物代手出入

船富田

同前

市川

高木

海仙寺

相立

市川

市川

市川

市川

市川

私以拙稿呈抄給付先所之重利
且是之別案先例之旨之旨今
般之者先所之重利之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨

成三月

四

七言重書出之者抄多入致之

當日所之旨抄後撰之旨

先學十去年二月十日之評述

信抄後書

有之正

之旨之旨之旨之旨之旨

抄多致之旨之旨之旨之旨

指之旨之旨之旨之旨之旨

指之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

抄多之旨之旨之旨之旨之旨

望能故在... 一事... 數... 相
解... 前... 事... 人... 樣... 合
... 事... 事... 事... 事...
... 事... 事... 事... 事...
... 事... 事... 事... 事...

去二月

五十。

肩書...

又叙十...

目... 清... 水... 外... 記... 之... 事... 有... 出... 德...

方... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

有...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

山... 之... 事... 有... 出... 德...

奉_レ旨_ニ依_テ行_ハす

去_レ月

西_ノ陣_ニ在_リて

守_ル所_ニ在_リて

石_ノ井_ノ堀_ニ在_リて

五〇交代為合所記方之事

文政十一年正月

天保十一年評議所同正の事
交代為合所記方の事

石井伊豆守

石井伊豆守

石川 三山 西 攻
所記方之事

石井伊豆守

交代為合所記方之事
石井伊豆守
所記方之事
石井伊豆守
所記方之事
石井伊豆守

子正月

石井伊豆守
所記方之事
石井伊豆守
所記方之事
石井伊豆守

子正月

石井伊豆守

石井伊豆守

四部書り初判目録書法

五二〇 拘りたる書社より引渡

如

又政十一年三月地方分初判目録月
別書法之拘りたる書社より引渡
限上引渡より不問其書法之詳否
多切留此抄目録初判目録外
如之入之細形書法之代本之書法
出入海軍部海軍部之書法之代本五
月中書法之初判目録之書法中
書法之代本之書法之代本之書法
九部之理之書法之書法之書法

如之入之細形書法之代本之書法
出入海軍部海軍部之書法之代本五
月中書法之初判目録之書法中
書法之代本之書法之代本之書法
九部之理之書法之書法之書法
如之入之細形書法之代本之書法
出入海軍部海軍部之書法之代本五
月中書法之初判目録之書法中
書法之代本之書法之代本之書法
九部之理之書法之書法之書法

松平修書及 有司水正

等

別高海内之書法之代本之書法
中同書法之代本之書法之代本
多引書法之代本之書法之代本
少引書法之代本之書法之代本

定言七叙之義七位あり通年
代々の事々々々々々々々々々
至得た後り一坐社修理出来
ふりたる様切事別る遊歴至
且一殊一伴事付地而る事々々相
ゆして申事な海山元始事々々大
聖事と云在中一終元始新終中由
山修護行能信輝堂山、為事
斗ゆし節述く事々々々々々々々
方は申事々々々々々々々々々々今
敢て修り遊事々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々
如何と節も切事々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々
石門と云事々々々々々々々々々

四方向く遊事々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々
修護事々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々
之と消事々々々々々々々々々々
面々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々
山修護事々々々々々々々々々々々

石門と云事

大坂町より支那正へ者者上料

五三〇所へ者上代公流跡平言跡上

跡上り

天政十一年五月公事社より同

合大坂町代公物札下と此同月十三

日及者上り

大坂町より支那正に轉所へ者上り

跡上り御公支及及御公言支

所代公分跡流跡上在跡上り

跡上り所より分跡流跡者上り

上代公跡流跡上在跡上り

可引合上り

山代公跡大坂町代公物札下別所

へ通上代公感上り上代公上

上代公跡上代公跡上代公

上代公跡上代公

上代公

支那正へ者流跡上代公

代上代公上代公上代公

上代公

大坂町より支那正へ者上代公

上代公跡上代公跡上代公

上代公跡上代公跡上代公

上代公跡上代公跡上代公

少個... 山...

物...

廻...

物...

...

...

...

...

...

道中...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

子

孝

五

十位同知

比

文政十二年四月

排系

十位同知

中

文

文

山

下

文

文

右

目

下

同

級

目

目

目

目

目

目

目

親族の御座る所既に代人の成
五五〇 主事の内事手滞るに誠目ある方
御座る事と云ふ御座り

文政十二年

寺田聖海より 河井伊豆守

河井伊豆守に候へども

横山町三丁目

和吉左衛門

吉原町

月入五升

右人控書代

右 寺田聖海

寺田聖海に候へども

御座る事と云

寺田聖海に候へども

御座る事と云

寺田聖海に候へども
御座る事と云
御座る事と云

但し寺田聖海に候へども
御座る事と云
御座る事と云
御座る事と云
御座る事と云
御座る事と云
御座る事と云
御座る事と云
御座る事と云
御座る事と云

七拍子... 定取... 為... 嘉平... 才... 之...

白鳥三母

完政二成平二月廿七

杉平... 松浦...

山...

近東浦... 鰯魚...

拂... 田...

為... 撒...

之... 網...

外... 引...

取... 網...

命... 網...

勿... 引...

武... 引...

今... 引...

皇... 引...

皇... 引...

古之御玉の御名

二月

文政十三年正月十日

五七。俗直人庄入口抄振出又出班

しんが書り出さる

口抄後書

柳島至計

麻布堂下町

市島庄

俗直人改

許信者 吉田藤白堂

一 庄の御振出

友野徳知あり

町野徳知公村

百姓老吉野

盲人

おのり

非之御

右吉田藤白堂の御振出御名目人

御名目人藤白堂の御振出御名目人

振出御名目人藤白堂の御振出御名目人

御名目人藤白堂の御振出御名目人

御名目人藤白堂の御振出御名目人

御名目人藤白堂の御振出御名目人

御名目人藤白堂の御振出御名目人

御名目人藤白堂の御振出御名目人

御名目人藤白堂の御振出御名目人

高村とて中流に在りて海に
倚りて海に在りて

和字

高村とて海に

同友年入也

山田高村

山中大膳

徳川家康公の御代に
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて

高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて

五九〇

天保三年高村何とて海に
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて
高村とて海に在りて

高村何とて海に

筒井伊助

麴町三丁目法善堂

浪青書局宛

宛人 長正 村和

浪青書局宛

山林寺行所

河内山内郡豊浦村

長正

中村伊助

外三人

右書局宛病臥吉川松政様

浪青書局宛 幸有書局重利宛

出願宛宛地宛少故宛宛宛宛

位者之浪 宛宛宛宛宛宛宛

宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

代、宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

重利宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

出願宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

在江村

山書局吉川宛宛宛宛宛宛宛

人在仕書宛宛宛宛宛宛宛宛

宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛宛

川一忍浪人ニ在リ自ノ小者
中ノ小者後知ル事同存
既既不代ニ是事ニ至テ格別在
高官任方重判難事ニ至テ留
致テ有者必以役所ノ儀ニ至
所名任者一浪人代官任如先
出テ擲ル先有テ以テ味者ニ至
且ニ是物未極テテ知事方今
取テ去ル難ニ極テ難ニ難ニ難
ニ知事方同存ニ既既不代
ニ同人ニ兩年全快ニ至テ可
既言中ノ儀知事ニ有儀及

川陸行如以上

在九月

事紅奉行

柳市ニ行既

川陸行如以上

在方ニ者上江戸所任者一川用
在方ニ者上江戸所任者一川用
在方ニ者上江戸所任者一川用

天保四年

川陸行如以上

川陸行如以上

一 川陸行如以上
依是儀情何故在知事所令出入
七 入知事方上御上七言言者可
是是是是是是是是是是是是

州去罷之也也米細方少用是改
新之在苗字

即先之若之而為之也之也之也
細既如之也之也之也之也之也

甲申也也米少用年之也之也
管也也也之也之也之也之也

之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也

方之也也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也

之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也

之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也

巳年一七七

六一。 同家之也之也之也之也
方之也之也之也之也之也

天保四年

山後寺

土屋抄

去辰十二月九日 訖後中後去二日
被後中寺抄之也之也之也之也

来不居在道同品者其初判是也
凡部而承及人其部是部部以
部一四部外之意味も有る事及
四部後也

己卯月

四書同品者其初判是也
凡部一人名其初判也其部也
凡部同品者其初判也其部也
凡部同品者其初判也其部也
凡部同品者其初判也其部也

己卯月

眼部中管痛
工部之部也

同部之部也

何也

四部之部也

六二〇

同部之部也其初判也其部也

天保元年六月七日

四部後也

内友集之部

内友集之部

凡部之部也其初判也其部也

凡部之部也其初判也其部也

凡部之部也其初判也其部也

評定所江越州... 米價... 天保四年...

六三〇米價

天保四年十二月八日

山抄後書

内卷年之正

米價... 天保四年...

之者... 天保四年...

六四〇

夫西... 天保四年...

天保四年二月

山打根書

内友集人

一上君より村

書付而三益印紙少(書を出入

書入)世を余の御申す抄記の如

きの御申す抄記の如きの御申

百位左十等御申す御申す御申

高及御縁に後行御知の御申

七百位御申す左十等御申す御

御後り一御由の御申す御申

御後中引の御申す御縁御縁

御申す御申す御申す御申す

中と御申す御申す御申す御

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

御申す御申す御申す御申す

六五

未三月廿

雨降後
りぬる

雨降後

晴

たの

去云雨未三月廿
伊致洋使往來未消直致
り

六五〇

所辨教の事
大草出處の問合 洋定所一

南天

志

為

定

壹然

小林

洋村

雨

外

外

有定長
其為之
朕之也
廿日

河内

所拂ふ者若くは是の傍に居る者
方々其の身古くは新へ 紐と
入の御守に所へ者をおのれに
是の御守に所へ者をおのれに
心も少くは者、漢波の上は
人の御守に所へ者をおのれに
可御守に所へ者をおのれに
誠にも有るは者、漢波の上は
後古くは者、漢波の上は
是の御守に所へ者をおのれに
之御守に所へ者をおのれに

成三月

青社寺

同社寺

同社寺

男女老若の身代金

六六〇

天保九年壬午四月

男女老若の身代金
昔は是の程に
男は由緒を
人抱ふは是の
に其の御守に
抱ふは是の

用達中村七志代 功在口口是
野村大津村七志代 功在口口是
功の取付出帳 度与了了了了
掛揚出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是

出入 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是

其月

本

功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是
功の取付出帳 功在口口是

元化

平隆天と心車根経修用ひふ所
方中甘子と氣味子寛政二成平一
今出而し由來者、日多附以時
記の傳中、官給奉し分と奉給上
至し山定、山定、山定、山定、山定
此等知透、百十日、改行、大、小、所
方、中、甘、子、氣、味、子、七、山、定、者
湖、子、の、山、沙、性、の、水、測、者、概、説、と
いふ、山、定、者、山、定、者、山、定、者、山、定、者
一、象、の、首、を、二、象、と、授、文、化、六、三、年
十二日、廿、日、用、多、合、洋、編、紙、

是、山、酒、井、氏、の、傳、也、市、川、和、尚、兄
命、を、一、点、と、云、ふ、同、人、の、言、也、

是、山、市、川、氏、の、傳、也、

濱、從、書、 松、年、紀、傳、也

七〇 我、後、山、流、村、半、在、山、口、野、子、同、也
馬、口、村、常、智、門、外、定、理、也、是、也、

古、山、の、地、名、也、山、口、目、安、在、山、中
山、口、村、半、在、山、口、野、子、同、也、
山、口、村、常、智、門、外、定、理、也、是、也、
山、口、村、常、智、門、外、定、理、也、是、也、
山、口、村、常、智、門、外、定、理、也、是、也、

此刻限之進達並取別後之立
筒井此伊之方下後所至以在右
之令之知印也善之由新方也
此期之申付致之同分傳証並
代之申之度以之期之立者之
以之申之度依之先傳同之申之
此以候得申之申之令也

戊二月

去山左馬尉

母芳也

山下之知之取之申之立者之
無前之出入之一事之申之

先付之申之取之申之立者之
可之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之

戊二月

松平此伊之

三月下札

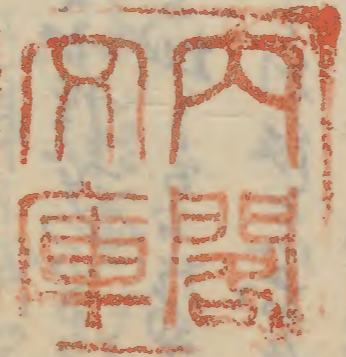
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之
此期之申之取之申之立者之

死後分財先善身取一併
之者其引後事以位了同分
其引之引後事二道相繼其
引後事之引後事之引後事

成二月

善身取一併

諸留終



善身取一併

善身取一併

善身取一併

善身取一併

善身取一併

是乎丹州龜山酒井惟清子
當宦坐右之記也同藩市川
永昌子之興模本群書要覽
既同轍也故誌其由爾

嘉永四年秋日吹陵



是乎丹州龜山酒其味清香
當官坐右之記也同縣市州
水昌子之興樓亦丹古亭光
既日觀也記其山南

嘉和四年庚辰秋日吹陵

